

2018年度 放課後等デイサービス・児童発達支援 自己評価表(重心通所さくら)

回答数25/30 (83.3%)

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	55%	40%	5%	利用人数が多い場合は、活動内容に合わせて相談室や食堂を使っています。
	2	職員の配置数は適切であるか	20%	60%	20%	ほぼ1対1の支援を行なっています。(利用者が多い時は1対1で行えない場合があります)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	85%	15%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	20%	50%	30%	契約職員が中心のため、ミーティングへの参加率が課題です。部屋ごとのケース検討も計画していきます
	5	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40%	50%	10%	今年度も保護者向けアンケートを実施します
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表しているか	90%	10%		
	7	第三者による外部評価を行ない、評価結果を業務改善につなげているか		100%		法人による内部監査を実施しています
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	30%	50%	20%	月1回の職員研修を行なっています。参加率が課題なので、研修日を別に設けることも検討します。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	50%	40%	10%	原則として年2回の個別支援計画の面談を行い、主担当者が参加しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	20%	60%	20%	知能指数評価などは重心のお子さんには適さないため、使用していません。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	20%	60%	20%	個別活動が主であるため、チームでの立案は少ない傾向にあります。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	40%	40%	20%	個別活動が主なので、一般的な活動プログラムのようなものは原則としてありません。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	30%	40%	30%	休業日利用の場合は個別支援計画や支援マニュアルを活用しています。マニュアルがない方もいますので、作成を進めます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	40%	40%	20%	主に個別活動を行なっています。子ども同士や成人(多機能のため)との活動も行っています。イベントを月に2回程度企画しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	40%	50%	10%	送迎添乗などで職員が同一時間に全員集まることができません。職員・利用者の集合後に利用者を含めて打ち合わせを試行しましたが、定着をめざします。

	16	支援終了後には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	40%	60%		支援終了後に振り返りミーティングを毎日行なっています。(送迎添乗員を除く)
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	56%	33%	6%	無回答1 記録内容については、管理者より指導を行なっています。不十分なものも見受けられるため、今後も継続して指導していきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	70%	20%	10%	年1回のモニタリング、年1回の計画書確認を保護者・本人を交えて実施しています
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	40%	50%	10%	「ガイドライン」の共有が課題です。活動内容はガイドラインに沿ったものになっています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通したもつともふさわしい者が参画しているか	100%			状況に応じて管理者、児童発達支援管理者、主担当者などが参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	70%	30%		各学校との連絡調整は双方から連絡を取り合っている行なっています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	70%	20%	10%	指示書のやり取りを始め、必要に応じて会見するなど密接な関係をもってしています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100%			就学児のほとんどが同一施設(多機能)児童発達支援事業のご利用者であり、情報共有は容易です。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	100%			放課後デイをご利用の方が同じ事業所の生活介護に移行することがほとんどで、情報共有が容易です。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	60%	40%		必要に応じて職員を積極的に派遣して指導・助言を受けています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		40%	60%	ほとんど行えていません。生活介護では市民向け講習会や高校での交流活動が始まりました。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	100%			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	50%	40%	10%	ご家族との連絡は概ねとれています。職員間の情報共有が課題です。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		60%	40%	PTを増員して必要な指導を行なえるようにしたいと考えています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	50%	40%	10%	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	30%	60%	10%	専門性の問題から、個々の担当職員が十分に応えることができないことがあります。看護師やPTなど専門職の配置を増やして対応しやすくしていく予定です。

	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	40%	40%	20%	年2回の家族連絡会を行なっています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	70%	30%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	70%	20%	10%	月に1回写真入りカラー刷りの部内誌を発行し、好評を得ています。
	35	個人情報に十分に注意しているか	90%		10%	個人情報が記された連絡ノートなどが無造作に部屋に置かれている場合があります。取り扱いを職員に注意していきます。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	60%	30%	10%	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	20%	50%	20%	秋祭りは地域行事として行っています。「地域に開かれた」というレベルには達していません。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	40%	40%	20%	防犯マニュアルの職員への周知が不徹底です。防災訓練に組み込みます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	85%	15%		裏山の崩落時の訓練を行います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	50%	40%	10%	虐待防止委員会に月1回参加し、内容を職員ミーティングなどでお伝えしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し、了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	30%	60%	10%	身体拘束・虐待については契約時に必ず説明をしています。実際には拘束が必要な状況はありません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	95%	5%		意思指示書は一部のみで、ご家族からの情報に基づいて対応しています。
	43	ヒヤリハットを事業所内で共有しているか	80%	20%		朝の打ち合わせ、職員ミーティングで報告するほか、職員共有アプリで配信しています。